

令和5年度第2回 北九州市子ども・子育て会議【会議要旨】

1 開催日時

令和6年3月27日（水） 17:00～18:35

2 開催場所

北九州市役所3階 大集会室

3 出席委員数 ※委員定数：15名

13名（伊藤欣文委員、高原委員欠席）

4 議題

- (1) 前回会議の振り返り
- (2) 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」15施策の評価について
- (3) 次期子どもプランの基本理念・方向性について

5 会議経過

- (1) 前回会議の振り返り
前回会議の振り返り、会議後に出た委員からの質問、意見をご紹介します。
- (2) 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」15施策の評価について
「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」15施策の評価について、事務局から説明。

【主な意見・質問等】

（委員）

現プランのすべての指標に関して、今特に満たしていないというところを説明していただいたと思うが、その要因分析などはもう既になっているのか。

⇒（事務局 回答）

今回は中間報告という形で報告しているが、要因については、それぞれの項目において精査しているところである。

(3) 次期子どもプランの基本理念・方向性について

資料に沿って、次期子どもプランの基本理念・方向性（案）を説明。

【主な意見・質問等】

(委員)

総論的にはすごく良いと思うが、全部問題点についての対策という方向性に思える。北九州市の良い所（小児救急、子育てしやすいまち1位、救急搬送の時間も全国的にすごく短い、救急患者を受け入れる病院がいっぱいあるなど）をまず宣伝するというのが、北九州市は苦手なような気がする。

北九州市の強みを全国発信して、北九州が安心であるとか、子育てしやすい、安全に医療を受けることができるとか、そういう前向きな方向性もちゃんと発信して、それを維持していくということも必要だと思う。

⇒ (事務局 回答)

委員のご指摘通りで、北九州市全体として、自分たちができていることに対しての発信が弱いという指摘はある。出来ていることを上手に発信していくということを意識していきたい。

(委員)

「こどもまんなか」という基本理念はとても良いと思うが、この施策の3つの方向性の主語がバラバラだと思う。「こどもまんなか」という大事なコンセプトを前面に出して、アピールできたら良いのではないかな。

例えば、「稼げるまち」の実現の部分を「子どもと共に成長を」など、「子ども」をキーワードにして、この3つについて考えられないか。「彩りあるまち」の方は、「子どもに多様な経験を」、「安らぐまち」のところは「子どもにいつでも寄り添いを」など、本当に子どもが真ん中にいるところを、伝えられたら良いと思う。

施策の方向性を整理した上で、取り組みの内容も、誰に対する施策か分かるように、はっきり示した方が市民にとっては分かりやすいのでは。

⇒ (事務局 回答)

いただいたご意見については、今後検討していきたい。

(委員)

「こどもまんなか city」を掲げ、これから、本当に子どもを真ん中にしてもらえることは嬉しい。課題は多くあるが、課題に当てはまらない子どもたちが抜け落ちないようにしないといけないという思いがある。目に見える課題をばかりに着目するのではなく、学校などと連携し、みんなで子どもを支える中で、課題を抱えている子どもに対する施策を打ち出すような方法もあるのではないかな。

課題に対して行っている施策も既にあり、子どもを本当に大事にしてるんだと気持ちを持ってもらえる方も沢山いるので、そのような部分を入れたほうが良いと思う。

(委員)

学校教育と福祉の連携は、大切だと思う。学校で見える子どもの変化が、すぐ福祉と繋がっていくかと言うと、そこはなかなか難しい部分がある。福祉と教育、学校と連携しながら、子どもを見ていくという視点は大切だと思う。

事務局の説明の中で、社会の意識改革に取り組んでいると言っていたが、具体的にはどのような取り組みなのかが気になる。例えば児童養護施設についても、随分古いイメージをずっと持っておら

れる方もいるので、良い取り組みを知ってもらい、自分のところもそのような地域にしたいというような事が、何かできないかなということなどを日々考えている。

⇒（事務局 回答）

教育委員会との連携については、例えば、コロナの様々な対応や、放課後児童クラブなどで取り組みを進める中で、以前よりも福祉と教育っていうのが、大分近くなってきていると感じている。距離感を双方意識しながら、どう連携し取り組んでいくかが大切だと思っている。

（委員）

今回の基本理念や方向性について、具体的なところが書かれているあるが、従来全くやってなかったという部分と、新たに始めた部分、拡充された部分等あると思うが、今回改めてこれが必要だとして取り組むようになったものがあるのか。

こども基本法で「子どもの意見を反映させる」という立てつけになっているが、基本理念や方向性を考えていく上で、子どもの意見を取り上げるというような観点が入っているのか、どういう方向性で進め、子どもの意見を反映させるのかお尋ねしたい。

⇒（事務局 回答）

次期子どもプランにおきまして、これまで取り組んでなかった拡充部分は、こども大綱の新規拡充分野（いじめ・不登校、こども家庭センター、子どもの自殺対策、障害のある子どもや発達に気になる子どもへの支援等）などがある。こども基本法で、市町村は「こども大綱」を勘案して、各都市の子ども計画を定めるものとされており、今回（資料に）は代表的なものを挙げている。

子どもの意見を取り入れるということで、右側の、「子ども・子育てもっと楽しく」という項目があるが、詳細については今後検討していきたい。

例えば、今後立ち上げる「みらい政策委員会」などで子どもの意見を募る予定にしている。

（委員）

北九州市が目指す都市像の中に、「つながりと情熱と技術」など3つのキーワードが出てくる。子ども・子育てに特に関係する人と人との繋がりという部分もあると思うが、この繋がりというキーワードが現代ではなかなか難しく、次の構想の中にどんな風に組み込まれるのか、自分自身もすごく悩んでいた部分。

子どもを育てる上で、親だけでなく、地域みんなが関わって育てる必要があるが、地域コミュニティが分断されてしまっていて、みんなで子どもを見つめるというのが日常的に難しくなっている。先生や親だけではなくて、社会全体で子どもを育てる仕組みづくりが我々に課せられたものだと思う。

⇒（事務局 回答）

子どもを育てている方、親の数も少なくなっており、社会の中で孤立を感じたり、生きづらなどが、顕著に表れてきているのではないかと。データの中からも出てくるが、親の子育てに対する不安や孤立感が大きくなってきていると思う。

取組の一つとして「こどもまんなか月間」を年に2回設けて、これまで以上に、インフォメーション・PRをやりたい。「子ども」について社会の中で様々な場面で人の目に触れる機会を意識的に増やす。やり始めて、すぐに成果が出るものではないかもしれないが、強く意識をしてやっていきたい。

(委員)

これから協議していくことになるかと思うが、今は仕組みを上手に作っていくことが大事だと思う。施設を利用する母親から、毎日子育てに関する相談を受けるが、それ以外の人達をどうやって支えるか。いざ自分が利用しようという段階に来ないと、実際相談はなかなかできない。この状況を改善できれば、より良い育児相談などが実践できるのではないか。

質の高いサービスをという話があったが、何ををもって質が高いと判断するかは非常に微妙なところ。今後、子どもの数が減っていく中で、親が求めるものは、安いものよりも質の高いものではないかと思うし、これからの傾向になるのではないか。そこで求められる質の高さを、北九州市として一定のレベルに到達するようなことを考えていかなければいけないと思う。

⇒ (事務局 回答)

子育てしている人の孤立感、不安感などをどこに相談できるのか、若い世代にどこが相談しやすいところなのか、当事者の声を聞くことも大事だと思う。この計画の中にも右の下の子育て DX の推進を入れているが、SNSなどで情報を得られている方も多い。

それと「質の高い」というのは、ご指摘の通り、何ををもって質が高いと言うのか計画を作っていたときに、指標の中で、何ををもってこの指標なり計画、どういった視点で評価していくのかというところが、そこが質の評価だったりすると思います。

(委員)

こども大綱は、「こどもまんなか」という、大きなキーワードと、「切れ目がない」ということを、非常に意識して作られてあると思う。この切れ目がないというのは、ライフステージにほとんど切れ目がないという意味もあるかと思うが、縦割りのこの行政間での切れ目のない支援を提供する意味合いもある言葉と思っている。

例えば地域における包括的な支援体制の構築とか強化などは、既存のものをきちんと有効的に行っていくというようなことも必要だと思う。計画を立てるときに、今している取組のブラッシュアップという視点も入れると良いと思う。

(委員)

子どもと子育てをしている世代、双方の視点があると思うが、子育て世代、子育てをする人たちに対する応援の他に、共働き・共育ての推進などがあるが、北九州市として、企業に対して、共働き・共育てを支援していくために、求めることはどのようなことなのか。

また、子育て世代が働いている会社企業に対して、その社員を会社が支援することに対して、自治体として何か支援があるのかなど、明確になると良いと思う。

⇒ (事務局 回答)

企業の協力は大事なところで、取組の視点の中にもあるが、パートナーや職場から子育てサポートを十分に受けられているかということなど、非常に大事だと思う。

例えば市役所と商工会議所等とのイクボスの取り組みなどのネットワークを使って、何か新しい働きかけができるか、市の制度、国の制度で、企業にメリットがあるものがあるのかなど見ていきたい。

(委員)

各論になるが、男性の育休っていう部分に関しては、大きく取り上げられておらず、育休を取りたくても取れない方もまだまだ多い。企業、学校などへ働きかけや、育休の取得方法などの周知も行っていただきたい。「パタニティブルー」とここ 10 年ぐらい言われてが、男性の産後うつも非常に問題になっており、育児参加をしても、精神的に不安定なったりすることがある。そうすると今度はまた女性に負担がかかり、家庭がうまく回らなくなって、子どもさんの負担がかかる。そういう部分も含めて、子どもプランの中で、うまく発信していただきたい。

(委員)

たくさん施策や取り組みがある中で、若者の就労支援、チャレンジ応援っていうのが新しくできているが、そのような取り組みがあっても、自分から調べることがなかったり、取組とかがあっても全然知らないことがある。これからこの取り組みがなされていく上で、学校などと連携して、子ども達、若者達が参加できる取組になったら良いと思う。

⇒ (事務局 回答)

発信の仕方、伝え方が非常に大事だと思うので、我々も更に努力していきたい。

若者のチャレンジの部分で今、市でも若い大学生や高校生の皆さん達と一緒に、いろんなプログラムに取り組んで一緒にやっていこうというところが増えてきている。若い世代に向けた働きかけ・連携を市を挙げて取り組んでいきたい。

(委員)

プランの取り組みの視点が6つ目の「多世代でこどもまんなかの考え方を共有し実践できているか」という部分は、多世代で色々な考え方があると思うので、興味深いと同時に、社会が変わるのはとても時間がかかるものなのだと思う。

自分が大学に通っていた頃は、働きながら子どもを育てられるのか、不安に感じていたので、多世代でいろいろな人たちが子どもをまんなかにして、社会全体変わっていくのはとても時間がかかり、社会全体仕組みが変わっていく必要があるのではないかなと感じた。

(委員)

先程、北九州の基本構想の「稼げるまち」に対する意欲が必要で、そういう状況でないと自治体そのものを運営していくことが非常に難しい。それは承知しているが、稼げるまちをするために、やはり生産性を高める企業をどう北九州の中に呼び込むのかなど、色々な課題がある。呼び込むためには働き手やその家族を、今の北九州市がどんな準備をして受け入れていくのか。その受け入れ準備を、このプランの中でもしておかないといけないのではないかなと思う。

「稼げるまちの実現」「彩りのあるまちの実現」と「安らぐまちの実現」の三本柱でいくことになるが、「安らぐまちの実現」は、課題に当てはまらない大勢の子どもたちが豊かな北九州であるということを実感して、子育ても豊かであるということを実感できるプランすることも、視野に入れていただきたい。

現実的に出産年齢がかなり上がっていて、子どもたちの成長とともに、親を介護しなきゃいけない状況が、多くの子どもたちに今起こってきている。これから先の時代を考えて、この出産年齢の上がっている状況を抑えられないとしたら、そのセーフティーネットの中に、ヤングケアラーへの支援などの準備も考えないといけない。

豊かさという点では、「彩りのあるまち」のところで、子どもたちが能力を伸ばしていけるように、子どもたちが生まれたところ、生まれた家庭の中だけでしか経験できないのではなく、多様な経験をどれだけ社会が作ってあげられるのか大切だと思う。そこを北九州が用意できると、他から北九州市で子育てをしたいなと思う人たちが入ってくるし、市外から来ている人たちも、ここで子育てをし

たいなと、どうやったら思ってもらえるのかということも、このプランでとても期待している部分である。

それから、「共働き・子育て」という言葉が、共働きが前提のように思える。現実としては、ひとり親家庭が非常に増えており、女性だけでなく、男性が1人で育てる場合もある。こども大綱を見ると「子育て当事者」という言葉を使っており、「2人で共に育てる」という意味で、どちらでもあてはまる、そこに子育てをしている当事者という言葉が大綱には出ているので、検討していただきたい。

⇒（事務局 回答）

言葉の使い方については、検討させていただきたい。働き手やその家族を、今の北九州市がどんな準備をして受け入れていくのか。その受け入れ準備をする必要があるというのは間に合わないというのは、ご指摘のとおりだと思う。

ヤングケアラーの部分は、すでに取り組みを始めており、この計画の中にも入っているので、続けて参りたい。また、社会が多様性にどれだけ準備できるか、色んな子ども達が、多様な経験ができるように、進めていく必要があると思うので、この計画の中に入れていきたいと考えている。

今日いただいた色々なご意見、貴重なご指摘、キーワードを踏まえ、次回までに準備をして参りたい。